教育情報誌

きょうこう

2022 春号

公益財団法人日本教育公務員弘済会

vol.39

わたしらしく ― 巻頭インタビュー ―

狐野 扶実子

特集

令和3年度 第27回

日教弘教育賞

最優秀賞の受賞校二校にインタビュー

心に残る子どもたち

香川県高松市立亀阜小学校 指導教諭　岡本 都久美
群馬県立大間々高等学校 校長　高橋 みゆき

教職員の健康を応援 歯周病〈第3回〉

歯周病予防（セルフケア）のポイント

若林 健史

My Second Life〈vol.9〉

子どもヤマビル研究会 コーディネーター

樋口 大良

わたしたちの学校自慢

専門高校シリーズ〈vol.4〉

大分県立 大分商業高等学校 商業調査部

巻頭インタビュー

狐野扶実子

食プロデューサー

狐野 扶実子 この ふみこ

1997年、パリの名門料理学校「ル・コルドン・ブルー」を首席で卒業。パリの三ツ星レストラン「アルページュ」でスーシェフ（副料理長）に就任。2001年よりパリを拠点に世界中のVIPらの「出張料理人」として活動。顧客にはシラク元大統領夫人やムバラク元エジプト大統領夫人らも名を連ね、その名は世界中に知れ渡る。

その後は、パリの老舗「FAUCHON」のエグゼクティブ・シェフを経て、パリのアラン・デュカス氏主宰の料理学校で講師を務める傍ら日本国内での活動を開始。JAL国際線ファースト＆ビジネスクラスの機内食メニューを開発。若き料理人を発掘する「RED U-35」の審査委員長。2020年まで慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科にて「食のエシカル消費」についてのシステムを研究。

食いしん坊

東京の練馬で育ちました。キャベツや大根がいつも身近にあって、隣に住んでいたお酒好きなおじいさんのおつまみを作っては一緒に「美味しいね」って食べる、そんな子どもでしたね。三半規管が弱くブランコにも乗れませんでしたし、アクティブに遊ぶよりも家の中にいるタイプの子。庭や畑の土を触り野菜を育て、採れた野菜でおつまみを作って喜んでもらっていた小学校低学年頃の体験が、料理との出会いだったように思います。身体は弱くても、食べることが大好きな食いしん坊でしたね（笑）。大学卒業後はフランス語の語学留学に二年間パリへ。アートにも興味があり、ソルボンヌ大学のフランス文明講座を選択しました。同じパリの空の下、たまたま出会った日本の男性と帰国後に結婚し、再び夫の勤務地であるフランスへ。ここから思いもよらなかったことが次々と起こっていきました。

フランスの一流料理学校へ

たまたま知人が連れていってくれたレストランの料理を食べたとき、身近で懐かしい味がしたのです。幼いときの野菜の味や体験とリンクしたというのか、料理に関わる仕事がしたいなという気持ちが沸き起こってきて、料理学校「ル・コルドン・ブルー」に入学しました。初級、中級、上級と上がっていくのですが、初級ではダントツに調理スピードが遅く、クラスで最後に課題を終えるというダメな生徒でした。世界からプロの料理人が集まる学校なので、皆はオーブンの蓋をしめたら当たり前のように次の作業に移ります。ところが私はオーブンの中の様子をずっと見て確認していたい。他の作業に移れないので遅れてしまう。叱られてばかりでした。

中級でスピードを上げることを課題にし、仕事の速いアメリカ人の女性シェフを目標に取り組んだところ、クラスで1、2番まで上がりました。上級では盛り付けを集中して学び、卒業試験では、誰もやりたがらない魚（スズキ）の丸ごとの料理に挑戦し首席をとりました。負けず嫌いな性格もあったのでしょう。運も味方してくれたと思います。

三ツ星レストランの掃除係から

卒業後は名の知れた三ツ星レストランに、シェフではなく掃除係として採用され、朝7時から夜中の2時頃まで働きました。毎日楽しかったですよ。掃除をしながら調理場を見ることができましたし、棚を拭きながらでも「この缶詰が多いな」「フォアグラはこの生産者が人気なんだな」と分かるし、シェフたちの哲学も聞くことができる。毎週金曜日は「掃除の日」で、冷蔵庫の掃除もできました。ある日、親切にしてくれていた黒人シェフがバカンスのためにお店を休みたいと、火を使わない前菜の作り方を教えてくれるようになりました。彼のバカンス休暇の穴埋めをこなしてから、

火を使う野菜の付け合わせに回り、次は肉に魚にと、全部署を回らせてもらいました。調理場には様々な国籍の人がいたので人種差別もあったし、突然来なくなったシェフもいて、毎日がハプニングの連続。アジア人で女性の私から指図されたくないと、拒否されることも多々ありました。首元をつかまれることもありましたし。調理場はただでさえ危険な場所。栄養ドリンクを飲み、コーラで血糖値を上げ（笑）、3年でこの三ツ星レストランのスーシェフ（副料理長）に就任しました。

世界を駆ける出張料理人に

レストランシェフのレシピを忠実に再現するのではなく、自分のレシピを作りたいというクリエイションを考えるようになりました。一時帰国し、さてこれからどうしようと考えていたときに、ホームパーティの料理を作ってくれないかとフランスの友人に頼まれ、単身で渡仏し初めて出張料理人を経験しました。それから次々と声を掛けて頂くようになり、結果、ヨーロッパからアメリカ、世界20か国以上の要人宅へ包丁をもって一人で飛び回ることになったのです。遠方のため下見ができないキッチンが多く、行ってみたら生きている牛と羊が待っていて、ご主人から「どうぞお好きに」と言われたり（笑）、驚くことも多く刺激的でした。ベルサイユ宮殿やルーブル美術館での食事会では、一人では不可能だけれど他の人や企業とコラボレーションすれば可能になることを学び、文化や人種の違いはもとより、オーガニックやエシカル（倫理的）消費、フェアトレードなど、社会問題と食との繋がりも世界各国を訪ねる中で気づかされました。

若い才能を伸ばす

ランチの出張料理人として呼ばれたのがきっかけで、パリの「フォション（FAUCHON）」で、東洋人として初めて、また、女性として初めての「エグゼクティブ・シェフ」に就任。世界各国から集まってくる料理人をまとめる立場です。指示の出し方や話し方、人種や文化の違いで日々起こるハレーションの重圧はありつつも自分のクリエイションができる楽しさで、ここでもがむしゃらな毎日。夢中で働きましたが、身体の変わりどきだったのでしょうか。手術をすることになり、夫のいるアメリカでリハビリに努めることになったのです。

今は現場で戦うのではなく、若い料理人を応援する立場になったというのかな。JALのファーストクラス・ビジネスクラスの機内食レシピ開発からメディアでの連載、日本最大級の料理人コンペティション「RED U-35（RYORININ's EMARGING DREAM U-35）の審査委員長などをしています。若い才能を伸ばすお手伝いができるのは嬉しい。実はコロナ禍で、日本でも出張料理人が増えているのです。女性の活躍も応援していきたいですね。

未来へ

食を通して社会問題解決に取り組みたいと考えています。食べることは誰にとっても身近だし、自然との接点だと思うからです。CO_2削減やフードロスといった社会問題は、社会の体系やシステムを変えることで解決できることが多いと考えるようになって、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科修士課程に入り、昨年修了しました。建築や保険会社、宇宙工学やスポーツ科学など異分野の人たちがいて、料理の目線でない考え方がすごく面白く、いろんな角度でものごとを見ることの大切さや、問題解決のためには連携することが必要だということを改めて学び直したように思います。

思い起こせば、身体が丈夫ではなかった子どもの頃の私が初めて興味をもった「おじいさんのおつまみ作り」を、周りの大人が応援してくれたことが、この道に進んだ背景にあるのかなと。興味をもったことが今すぐに役に立たなくても、子どもたちには自由にやらせてみて欲しい。人生の転機に必ず役立つことでしょう。また、災害大国・日本で育つ私たち日本人は、被災地を応援しようということが自然にできるエシカルな国民性を備えています。給食を通して、生産地や生産者のことがわかるような取り組みが日本の学校でできたら素敵ですね。私は今ニューヨークを拠点に活動をしていますが、食と自然と人が繋がりあい、心豊かに暮らせる世界を皆さんと一緒に創っていきたい。そう願っています。

特集

令和3年度
第27回 日教弘教育賞

最優秀賞の受賞校二校にインタビュー

日教弘教育賞は、当会、公益財団法人日本教育公務員弘済会が行う教育研究助成事業です。
教育関係者が使命感をもって日々行う教育実践の報告の場として、日教弘教育賞実践論文を募集し、学校教育の向上発展に寄与する優れた教育実践研究論文を対象に、助成を行っています。

生徒の潜在的ニーズを満たし ポジティブな感情を引き出す教育の実践
－「デザイン思考」によるプロジェクトの推進を通して－

岡山県岡山市立高島中学校 校長 梅原（うめはら） 信芳（のぶよし）

❶ はじめに

学区は岡山市の市街地の北東部に位置し、もとは純農村地帯であったが、市街化が進み、人口が増加してきた。本校は、昭和56年に竜操中学校・操山中学校の2校から分離して新設された学校である。

地域は自然に恵まれ文化財の宝庫でもあり、住民は地域へ深い愛着を持っている。そして、家庭と学校・園と共に地域の子どもを育てる雰囲気が醸成されている。

生徒は、素直で何事にも前向きに取り組むことができるが、自分に自信が持てないところが見られる。

生徒や地域の実態や時代の要請から、「学力向上」「地域連携」「心の教育」が、本校の課題として浮彫となっている。

❷ 主題設定の理由

課題解決のためには、生徒の立場に立って考えることが大切であり、その前提として生徒理解を深める必要がある。生徒は、様々な場面で「やりたくない」「できない」「楽しくない」といった思いを表出することがあるが、その裏には「もっとやりたい」「できるようになりたい」「楽しみたい」といったポジティブな思いがあることを理解し、その感情を引き出したい。このように、表出された表面的なニーズに対応するのではなく、本質的な欲求である潜在的ニーズを探り、そこへアプローチしていくことが課題解決につながると考えた。

「デザイン思考」は、イノベーションを生み出すための手法、新しいマーケットを創造する手段として企業等で用いられているが、潜在的ニーズを探ることは生徒理解を深め、生徒の立場に立ってきた教育の本質とつながるものであり、教育課題の解決に生かされる発想であると考えた。前述の課題の解決を全教職員が共有し、本校の今年度のプロジェクトとするとともに、分掌を横断したプロジェクトチームによる取組と個々の取組の積み重ねから解決を図ることとし、研究主題を設定した。

❸ 研究仮説と研究方法

(1) 研究仮説

本研究では、課題解決に向け、生徒の本質的な欲求である潜在的なニーズを満たし、ポジティブな感情を引き出すことに着目し、次の研究仮説を立てる。

〈研究仮説〉「デザイン思考」によるプロジェクトを推進することで、生徒の本質的な欲求である潜在的ニーズを満たし、ポジティブな感情を引き出すことができる。

(2) 課題解決を図るプロジェクト

3つのプロジェクトの目的を以下のように設定した。

【学力向上プロジェクト】これからの時代に求められる学力の育成
【地域連携プロジェクト】地域を愛し、地域に役立とうとする生徒の育成
【心の教育プロジェクト】自他を尊重する生徒の育成

(3)「デザイン思考」によるプロジェクトの推進

プロジェクトの推進にあたって「デザイン思考」の3段階で取り組むことを全教職員で共通理解した。

①着想:本質的な欲求である潜在的ニーズを探る。
②発案:潜在的ニーズを満たすアイデアを創造する。
③実現:改善した取組を実施し、効果を検証する。

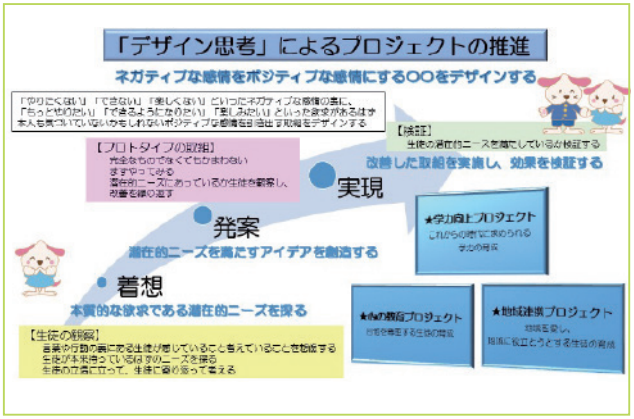


図1「デザイン思考」によるプロジェクト推進のイメージ

❹ 実践内容

(1) プロジェクトチームの編制

プロジェクトの目的を設定し、関連課題の分掌担当者を構成員とするプロジェクトチームを編制した。プロジェクトとしての目標は、岡山市が毎年実施する「教育に関する総合調査」の関連項目を評価指標とし、昨年度の肯定的回答の割合を目標の基準値とする。

学力向上	目的	これからの時代に求められる学力の育成
	目標	学校の授業はわかりやすく楽しい(R2:69.1%)
	関連課題	指導と評価の一体化、ICT活用、家庭学習の充実
	リーダー	研究主任
	構成員	研究推進委員、評価係、ICT教育係、学活係
地域連携	目的	地域を愛し、地域に役立とうとする生徒の育成
	目標	地域の方とのふれあいに興味・関心がある(R2:46.3%)
	関連課題	コロナ禍での地域連携、高島中ESDの構築
	リーダー	地域連携担当
	構成員	生徒会係、ESD・交流教育係
心の教育	目的	自他を尊重する生徒の育成
	目標	人が困っているときに進んで助けている(R2:83.2%)
	関連課題	自己肯定感・自尊感情の高揚、不登校支援、メディアコントロール
	リーダー	生徒指導主事
	構成員	教育相談・不登校係、人権教育係、道徳教育係、ESD・交流教育係、学活係

図2 プロジェクトチームの目的・目標・構成

(2) プロジェクト会議での「着想」「発案」と「実現」

年度始めに各プロジェクトで会議を開き、「デザイン思考」の2段階である「着想」「発案」について協議する。生徒の潜在的ニーズを探るために、生徒が考え感じていることを生徒の立場に立って想像する。その際、生徒の言葉や行動の観察から想像し、それを「共感マップ」と呼ぶ表にまとめる。更に、ブレインストーミングにより潜在的ニーズを満たすアイデアを出し合う。

図3 共感マップによる「着想」の協議

「生徒の立場に立つ」「生徒に寄り添う」等の言葉は日頃から使うが、実際にどうするのかは教職員間で捉え方の違いが見られる。「共感マップ」を用いて、生徒の言葉や行動と生徒の考えや感じていることとを結び付けながら潜在的ニーズを探る作業は、生徒の立場に立ち、寄り添うことを体感し、教職員間でそれを共有する機会になると考えた。

①学力向上プロジェクト

本校の生徒は、落ち着いて授業に取り組むことができるが、学力の向上に十分結びついていない。「分かる授業づくり」にはこれまでも取り組んできたが、昨年度の「教育に関する総合調査」の調査項目「学校の授業はわかりやすく楽しい」の肯定的な回答の割合は、市の平均を下回った。

潜在的ニーズを探る「着想」の協議では、ポジティブな感情である「分かるようになりたい」「できるようになりたい」からスタートし、更に具体的な場面での生徒の思いを想像した。例えば、分かった時に「自分の考えを聞いてもらいたい」「話したい」、つまずいたときに「教えてもらいたい」「他の人の考えを聞きたい」、取組の後に「自分への評価を聞きたい」「自分の姿を客観的に見たい」などである。

生徒の思いを想像した上で、ポジティブな感情を引き出す取組をデザインする「発案」の協議で、「教え合う活動の工夫」「説明する活動の導入」「活動の様子の動画撮影とその視聴による振り返り」「スモールティーチャーの活用」などの案が出された。これらは、今までも各教科で取り入れてきたが、生徒のニーズを発案の出発点とすることで、取組の目的が明確になる。生徒が「授業が分かりやすく楽しい」と感じられるためには、「授業の中で、分かった、できたと感じてうれしくなるときがある」といった実感を伴う体験が必要であると考え、具体的な取組をデザインした。

例えば、今までの観察から、生徒が最も活発に発言するのは「1対1」「全体」ではなく、「班」ではないかといった意見が出された。「教え合う活動」や「説明する活動」を行う際に、学習形態がポイントの一つであることを確認した。

図4 ブレインストーミングによる「発案」の協議

②地域連携プロジェクト

コロナ禍では、生徒が地域の方と直接触れ合う取組が困難であり、直接体験を通して地域の方の思いを実感することができにくい。

「着想」では、生徒と地域の方の潜在的ニーズを探る。「ほめてもらいたい」「認めてもらいたい」「教えてもらいたい」といった生徒の思い、「関心がある」「知りたい」「教えてあげたい」「守ってあげたい」といった地域の方の思いを想像した。

図5 公民館の中学校掲示板

図6 中学校の地域活動掲示板

「発案」の協議では、コロナ禍での地域連携について考えた。今までのような行事はできないことを受け、「学校ではできないけれど公民館ならできることがあるのでは」といった意見が出される。そこで、「公民館を利用して、地域と生徒をつなぐ仕組みをデザインする」ことが提案された。具体例が「公民館に中学校掲示板を、中学校に地域活動掲示板を」である。昨年度の第1学年が、郷土学習、平和学習、SDGsの学習に取り組み、成果発表会を開催したが、感染防止のため、学校外の方を招くことができなかった。地域の高島公民館に依頼し、「高島中学校文化発表会作品展」としてロビーの一角に作品の一部を展示していただいた。作品を見てくださった地域の方から、温かい言葉や励ましのメッセージをいただいた。中学校には「地域活動掲示板」を作成し、公民館で展示作業をした様子や地域の方のメッセージを掲示した。地域と学校をつなぎ、地域の方々の温かい思いを生徒へ届けることができた。

③心の教育プロジェクト

本校の生徒は、他の人が困っているときに進んで助けようとするなど思いやりのある生徒が多い。しかし、自分の長所や良さを認め、自信をもつことができにくいところがある。自分に自信をもち、自他の存在を認め、自他を尊重する生徒の育成を図りたい。

「着想」の協議では、「ほめてもらいたい」「認めてもらいたい」といった当たり前の感情を想像したが、「自己肯定感とはどんなものか」「幸せな気持ちになるのはどんな体験をしたときだろう」「本当はどうしてもらいたいのだろう」といった議論にも広がった。学校生活を「授業」「学年・学校行事」「その他の生活場面」に分けて、それぞれの場面で、どのような気持ちが起こりやすいかを想像する。

「自分や他者の存在について考え、互いの大切さを感じたい、認め合いたい」等を生徒の本質的な欲求と考え、これに応える取組をデザインすることとした。

「発案」の協議では、まず、自分や他者の理解を深める機会と、他者からそれを認めてもらえる機会を意図的につくることとした。本校では、「いじめ」等の把握のために、毎週金曜日の帰りの会で「今週気になったこと」を書いて担任に提出する「週末調査」を行っている。これに「発見!今週のキラリさん」と題して、だれかに助けてもらったことや誰かが良いことをしていたことなどを記入する調査用紙を作成した。抵抗なく記入する生徒の姿が見られたため、友達との会話で学んだことや気づいたこと、自他ができるようになったことなどを記入する「今週の周りの人の新たなキラリ!」や、「今週のあなたの仕事（係・当番など。家での仕事でもいいよ）は?やってみてどう?」などの質問で記入する「今週は仕事でキラリ」など、調査内容を週ごとに変えた。更に、良いところだけでなく、自分の得意や嫌いなことについて新たな自分を発見する質問も取り入れた。また、これを学級で紹介し合う活動も行った。

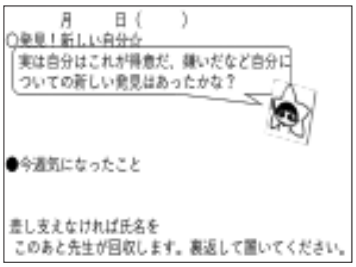


図7 週末調査「発見！新しい自分」

「デザイン思考」では、完全な取組を考えてから始めるのではなく、まずやってみて、生徒のニーズにあっているか確認しながら、改善することがポイントの一つである。「心の教育プロジェクト」では、取組を全校で進めながら、生徒の反応を観察し、改善を重ねることを大切にした。

(3) プロジェクト推進に向けた個々の教職員の取組

プロジェクト推進にあたって、プロジェクトチームとしての取組と同時に、全教職員が個々の取組を行った。どのプロジェクトについて取り組むのかは自分で選択することとした。新たな取組を行うのではなく、今まで行ってきたことを、「着想」の段階で、生徒の本質的な欲求である潜在的ニーズに立ち返る作業を大切にした。それを出発点として「発案」で今までの取組の目的を明確にして取り組んでいく。

学力向上	着想	学習したことを身に付けたい　自信がもてるようになりたい
	発案	復習したくなる「小テスト」をデザインする
		●授業のワークシートから5問に絞って出題する ●分からなかったことへアドバイスを小テストに添える
	実現	「授業→復習→小テスト・アドバイス」の流れが自信につながる
地域連携	着想	自分の知識や技能を役立たせたい　地域の方に喜んでもらいたい
	発案	地域の方のためになる夏休み課題をデザインする
		●人や社会、環境に配慮した「エシカル消費」をとりあげる ●地域の方が生活で実践できる「エシカル消費行動かるた」を作成する
	実現	地域の方のためという視点が、課題へ取り組む意欲の向上につながる
心の教育	着想	友達に聴いてもらいたい　認めてもらいたい　つながりたい
	発案	友達とのつながりが感じられる伝え方・聴き方をデザインする
		伝え方：伝える範囲をイメージする 聴き方：発信者が聴いてくれていると意識できる聴き方
	実現	伝え方・聴き方を生徒自身が工夫するようになる

図8 個々の教職員の取組例

❺ 成果と課題

1学期末（令和3年7月）に、各プロジェクトの「着想」で考えた生徒の潜在的ニーズに関する質問項目と、評価指標とした「教育に関する総合調査」の質問項目で、全校生徒を対象に調査を行った。

潜在的ニーズに関する質問項目では、特に授業で、ポジティブな感情が得られたことについて、肯定的な回答が高い割合となった。

生徒の潜在的ニーズに着目した取組をデザインし実行することが、ポジティブな感情を引き出すことにつながると考えられる。

授業で、わかった・できたと感じてうれしくなるときがある（R3.7）

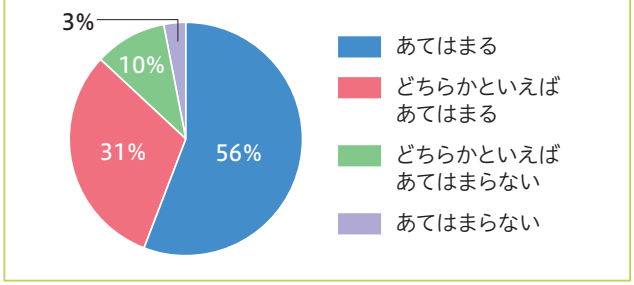


図9 学力向上（潜在的ニーズ）

地域活動掲示板などの地域の方のメッセージを読んで、うれしく感じることがある（R3.7）

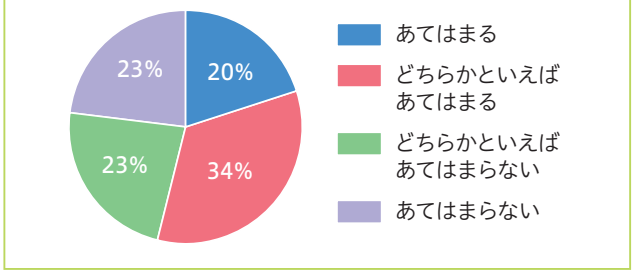


図10 地域連携（潜在的ニーズ）

週末調査で、自分や他の人の良さを発見できることがある（R3.7）

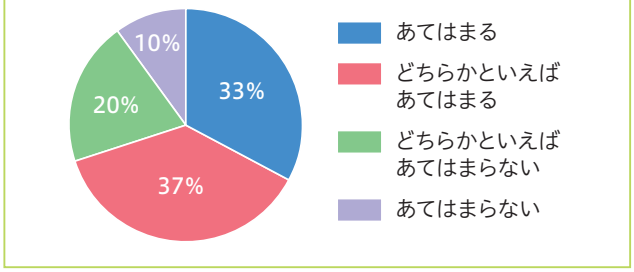


図11 心の教育（潜在的ニーズ）

「教育に関する総合調査」の質問項目は、令和2年10月と比較して、肯定的な回答の割合がいずれも上昇した。特に「あてはまる」の回答が、大きく上昇している。

学校の授業はわかりやすく楽しい

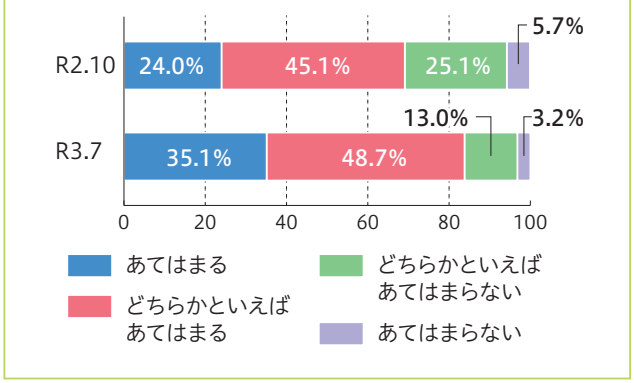


図12 学力向上（教育に関する総合調査の項目）

地域の方々とのふれあいに興味・関心がある

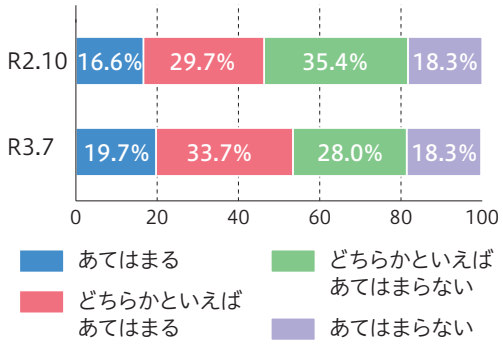


図13 地域連携（教育に関する総合調査の項目）

人が困っているときに進んで助けている

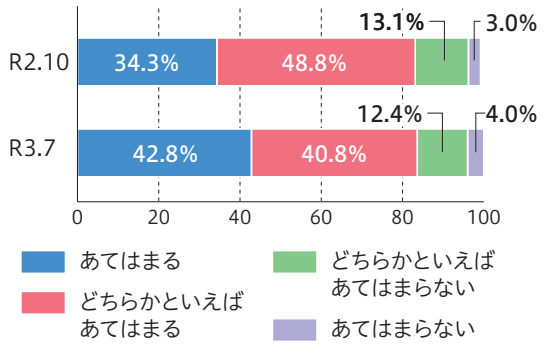


図14 心の教育（教育に関する総合調査の項目）

「着想」「発案」「実現」の3段階で取り組み、生徒のポジティブな感情を引き出すことと、プロジェクトの目標値がいずれも上昇する結果が得られ、「デザイン思考」によるプロジェクトの推進についての効果を確認することができた。プロジェクトの目的を達成するためには、「デザイン思考」のサイクルを今後も繰り返す必要があると考える。

⑥ まとめ

生徒の本質的な欲求である潜在的ニーズを探ることは、今までの教育で大切にしてきた生徒理解を深め、生徒の立場に立つことであり、今回、あらためてこのことに立ち返ることができた。「デザイン思考」という共通の言葉で実践を進めたことも全教職員が同じ方向に向いて取り組むことにつながった。今後も、生徒を中心に据える姿勢を大切にしていきたい。

＜参考文献＞

●小山田那由他 著
「これからのデザイン思考」
エムディエヌコーポレーション（2021）

●ハーバード・ビジネス・レビュー編集部
「デザイン思考の教科書」
ダイヤモンド社（2020）

梅原校長へのインタビュー

研究を進めるにあたり苦労した点はありますか？

「生徒の立場に立つ」「生徒に寄り添う」といった言葉は教師の間でよく交わされています。しかし、「具体的にどのようにするのか」といったことや、「どのような姿勢なのか」まで、突き詰めて考える機会は、あまりもてていなかったように思います。

そういった中で「デザイン思考」がきっかけになるのではと考えました。この手法は、顧客の表面的なニーズに対応するのではなく、本質的な欲求である潜在的ニーズを探ってアプローチするといった企業などで用いられている手法です。この手法を学校で用いることは、生徒の立場に立って、生徒理解に努め、指導・支援の工夫改善を図るなど、目の前の生徒から始まる教育の本質を見つめ直す機会にもなると考えたのです。

まず、全教職員での取組とすることが大切だと考えました。その際、「デザイン思考」への理解や、この手法を用いることの意義を共有することが課題となります。教育現場では聞き慣れない「デザイン思考」についての理解を図るために、イメージ図や資料を作成しました。「デザイン思考」に関する書籍は多く出版されていますが、読み込むのはなかなか大変です。「デザイン思考」の概念の理解にとどまらず、学校教育に活用したいという意欲を引き出すためには、シミュレーションコミック化された書籍（「まんがでわかるデザイン思考」著・脚本／小田ビンチ、著・作画／坂元　勲、監修／田村 大　小学館2017）が有効でした。管理職やプロジェクトリーダーがこの書籍を読み終えた時に、「デザイン思考」の活用に挑戦したいという気持ちが湧いてきました。

研究後、先生や児童・生徒にどのような変化がありましたか？

論文に示しましたが、生徒の変容については、生徒の潜在的ニーズに関する質問項目による調査を行って確認しました。また、各プロジェクトの成果については、岡山市が毎年実施する「教育に関する総合調査」の関連項目を評価指標としています。

1学期末の調査により「授業で、わかった・できたと感じてうれしくなるときがある」について肯定的な回答の割合が87%と大変高い結果が得られたことは正直驚いています。授業づくりについては、本校は昨年度までの2年間、岡山市ICT活用研究の指定校として全教員が取り組んでいますので、その成果でもあると思われます。

「地域活動掲示板などの地域の方のメッセージを読んで、うれしく感じるときがある」「週末調査で、自分や他の人の良さを発見できることがある」については、肯定的な回答の割合がそれぞれ54%、70%と、授業ほど高い数字ではありませんが、新たな取組に対して、生徒は比較的肯定的に受け止めてはいるようです。本実践により、生徒のポジティブな感情が引き出された機会が多少なりとも得られました。

また、プロジェクトの成果については、1学期末調査を見ますと、令和2年10月と比較して、いずれも肯定的な回答の割合が上昇していました。令和3年10月調査でも昨年度より上昇しており、一定の成果が得られたと考えています。

自他を尊重する生徒の育成を目的とした「心の教育プロジェクト」に関わって、素晴らしい生徒の発想が見られました。本年度の2学期に、生徒会が「一日一善デー」を企画したのです。「発見！今週のキラリさん」が、生徒の取組につながったようです。

「一日一善デー」では、「他の人のために自分ができることをしよう」と呼びかけ、帰りの会で「良いことをしてもらった人」「良いことをしている人」についてアンケートをとります。この企画の目的に「人のために行動できる優しい心を高島中学校全体に広げ、より良い学校をつくる」「人に感謝することと同時に、感謝されることの喜びを感じ、思いやりの心をもつ」を掲げていました。ここで大切なことは、「よいことをした」という自己満足にならないよう、「よいことをしてもらった」という受け取り側の気持ちに目を向けることを押さえているということです。

「一日一善」の呼びかけは、よくある取組ですが、本校生徒ならではの視点をもっていることに生徒の成長を感じました。11月の第1回実施時にすでに、2月の第2回実施について検討するための振り返りを計画していることにも驚きました。「デザイン思考」では、失敗を前提に、多様なアイデアを取り上げること、うまくいかないことを改善して繰り返して取り組むことを大切にします。失敗は当たり前で、むしろ失敗から学ぶということです。生徒に「デザイン思考」を説明したわけではありませんが、最初から完成した取組を求めるのではなく、やってみて改善することを前提にする姿勢が、教師の指導・支援からも伝わっているように感じました。

生徒指導の問題への対応について、いろいろな視点や立場から考えて思案している際、最終的には「生徒にとってどうすることが本当によいのか」という視点で考えるところへ行きつきました。そのとき「これってデザイン思考だなあ」といった言葉が出ました。この研究を行うことで、教育の本質である「生徒の立場に立って生徒理解に努める姿勢」について改めて立ち返ることができた場面の一つです。職員会議でも「生徒指導」と「デザイン思考」について触れています。

全国に同様の課題を持った先生方がいらっしゃると思います。メッセージがあればお願いします。

「学力向上（これからの時代に求められる学力の育成）」「地域連携（地域を愛し、地域に役立とうとする生徒の育成）」「心の教育（自他を尊重する生徒の育成）」などは、どの学校にもある課題であり、様々な方法で解決に向けて取り組まれていると思います。本校も今までも解決に努めていますし、今後も継続する課題です。新たな取組だけでなく、生徒の本質的な欲求である潜在的ニーズを探ることで、同じような取組をしたとしても、生徒のニーズに応えるという明確な目的がもてました。そして明確になった目的に対しての成果を確認することができました。今回の研究では、潜在的ニーズに対する成果と、プロジェクトに対する成果を分けて見取っています。

また、今までにはない発想も出されました。「地域連携プロジェクト」の「公民館に中学校掲示板を、中学校に地域活動掲示板を」がその一つです。「連携」と言うと地域の方と中学校が一緒に活動することばかりを考えてしまいますが、「ほめてもらいたい」「認めてもらいたい」といった生徒の思いや、「知りたい」「教えてあげたい」といった地域の方の思いを想像することで、直接的にかかわる活動でなくても、そのニーズを満たすことができるのではと考えることができました。そして、教科の学習や生徒会の活動とも結び付けられ、新たな発想が次々と生まれていきました。

課題解決への取組を楽しむことが大切なように思います。「着想」「発案」の段階で、教職員がブレインストーミングで、楽しみながら生徒の思いを想像したり、アイデアを出し合ったりすることが、教職員のポジティブな感情を引き出すことにもつながり、取組を進める上での大きなエネルギーとなりました。生徒と教職員がともにポジティブになる場面が少しずつ得られ、学校全体に活気が生まれたことは取組の成果でもあります。「コロナ禍だからできないではなく、コロナ禍だからこそ自分たちで創造していこう」ということと同様、「課題があるからその解決を、自分たちでこその豊かな発想で解決していこう」「それを楽しんでいこう」とポジティブに捉えていきたいですね。

視覚障害児童の主体的・対話的な学び合いを支える集団づくりと学習活動の充実を図る取り組み

盲学校同士をオンラインでつないだ遠隔合同授業の実践を通して

沖縄県立沖縄盲学校 教諭 伊波 興穂（いは こうほ）

Ⅰ 主題設定の理由

全国には盲学校（視覚障害特別支援学校）が約70校あり、これまで各地の視覚障害教育の専門機関としての役割を果たしてきた。

しかし、本校や多くの盲学校では児童生徒数の減少と障害の重複化という課題を抱えている。本校小学部では「準ずる」教育課程を履修する児童は全児童数の22%（令和2年度）で、そのすべての学級が児童一人のみの学級である。そのため、多様な意見に触れる機会が少なく、児童同士で教え合ったり学び合ったりする協働的な学習が行いにくいなどの課題がある。また、児童生徒数の減少をうけ、盲学校内で継承されてきた視覚障害教育についての専門的な指導法や内容を継続的に継承することが容易ではなくなってきている。

「すべての視覚障害児の学びを支える視覚障害教育の在り方に関する提言」（2010）※1においては、障害の発現率が少数である視覚障害児にとって、地域の学校で同年代の児童生徒とともに学ぶ経験だけではなく、同じ障害のある友達と悩みを分かち合う機会の必要性や、同障害種の友達がいる一定規模の集団での学びの確保が視覚障害児の成長過程には不可欠であることが示されている。しかし、本校と同じように同一県内に盲学校が一校のみという都道府県も多く、単独校のみでそのような集団を確保することが困難な現状がある。

現在、離島や小規模校におけるウェブ会議システムを活用した遠隔合同授業の取り組みが「遠隔学習導入ガイドブック第3版」※2の中で報告されているが、特別支援学校での実践例は多くはない。そこで本研究では、県外の盲学校2校とオンラインを活用した遠隔合同授業に取り組むことで、視覚障害児童同士が主体的・対話的に学び合いながら自身の考えを広げたり深めたりできるのではないかと考え、本テーマを設定した。

Ⅱ 研究仮説

遠隔合同授業に適した単元や場面を設定することで、児童同士の主体的・対話的な学び合いが深まり、児童が自身の考えを広げたり深めたりできるであろう。

Ⅲ 研究内容

1．理論研究

（1）遠隔合同授業とは

「遠隔学習導入ガイドブック第3版」によれば、遠隔合同授業とは「ウェブ会議システムを利用して、離れた学校の学級同士をつないで行う授業のこと」とされている。本研究では、Microsoft TeamsとZoomの二つのウェブ会議システムを使用し、同時双方向で学級間をつないだ授業を行う。また「遠隔教育システム活用ガイドブック第3版」では、遠隔教育を実施する目的や接続先によって12のパターンが示されている。本研究では、その中の遠隔交流学習（児童同士が交流し、互いの特徴や共通点、相違点などを知り合う）の段階から、遠隔合同学習（継続的に合同で授業を行い、多様な意見に触れたりコミュニケーション力を培ったりする機会を創出する）の段階へ移行していくことをねらい、授業改善を図っていく。

（2）遠隔合同授業で身に付けさせたい力や態度

鷹岡ら（2018）※3は、過去の遠隔合同授業を分析し、身に付けさせたい力として①学習内容を広げる・深める力②コミュニケーション力（対話力）③主体的に参加できる態度の3つを示している。本研究では、鷹岡らの観点に視覚障害児童が学び合う上で必要な視点を加えて、以下の評価観点を設定した。

①自分の考えと友達の考えを比較したり関連づけたりして、自分の考えを広げたり深めたりしている。
②自分の考えを友達に正しく伝えるために話し方（順序立てる、指示語を使わず具体的に説明するなど）を工夫したり、友達の話を正確に聞いたりしている。
③共に学び合う必要性や良さを感じ、積極的に関わり合おうとしている。

Ⅳ 実践研究

1．本校対象児童について

対象は小学部6年のA児。全盲で点字を使用して学習している。自ら考えて行動したり、自分の意見を伝えたりすることはできるが、1年生から一人学級のため、友達と切磋琢磨する機会が少なく、友達の意見を聞きながら合意形成を図ることが苦手である。また、これまで居住地校交流などを通して同年代の児童と関わる機会はあったものの、晴眼の児童からの支援に対して受け身になりがちで、主体的な学習参加には至らないことが多かった。A児からは「一緒に勉強する友達がほしい」という声が聞かれ、同年代の視覚障害児童同士で学習する機会が必要だと考えられた。

2．連携校と実施期間

本研究に賛同いただいた以下の2校それぞれとともに、遠隔合同授業に取り組んだ。

(1)大阪府立大阪南視覚支援学校(以下、大阪南)
6年生2名(墨字使用1名、点字使用1名)
期間：令和2年8月～令和3年3月
使用したウェブ会議システム：Teams

(2)筑波大学附属視覚特別支援学校(以下、筑波附属)
6年生8名(墨字使用4名、点字使用4名)
期間：令和2年9月～令和3年3月
使用したウェブ会議システム:Zoom
(墨字とは、点字に対して普通に書かれた文字や印刷された文字のことで、拡大教科書の文字も含む。)

3.授業計画と単元の選定

授業実践開始前に、各連携校の担任と児童の実態や遠隔授業のねらいなどについてそれぞれ話し合いを行い、児童の使用文字による学び方の違いを考慮した上で、集団での学習が効果的な単元や内容を選定し、年間を通して取り組むこととした。通常、他校と合同授業を行う場合、異なる教科書の単元や題材を揃える必要がある。しかし全国の盲学校では、同じ点字教科書を採択しているため、単元や題材を合わせる作業をスムーズに実施できた。また、授業後は各校の担任とオンライン会議でふり返りを行い、児童の様子の共有と次時の確認を行いながら授業を進めた。

(1)大阪南との合同授業計画(合計 23時間)

月	教科等	単元・題材名(合同で取り組んだ時数)
8月	総合	自己紹介をしよう(1)【遠隔交流学習】
9月	道徳	ひきょうだよ(1)【以下、遠隔合同学習】
	国語	利用案内を読もう(2)
10月	道徳	ブランコ乗りとピエロ(1)
	国語	対話の練習 一番大切なものは(2)
11月	算数	比(6)
12月	算数	比例(5年の復習)(1)
1～2月	算数	比例と反比例(7)
3月	国語	思い出を言葉に(2)

(2)筑波附属との合同授業計画(合計 10時間)

月	教科等	単元・題材名(合同で取り組んだ時数)
9月	総合	自己紹介をしよう(1)【遠隔交流学習】
10～11月	国語	やまなし(3)【以下、遠隔合同学習】
12月	道徳	友達だからこそ(1)
1～2月	国語	海の命(4)
3月	社会	戦争と人々のくらし(1)
11～3月	その他	休み時間の自由交流(毎週2回)

4.授業の実践

各校と実施した遠隔授業の中から一部を取り上げて報告する。

(1)大阪南との合同授業:6年算数「比」(11月)

単元計画(全10時間のうち、6時間を合同で実施)

	目標及び主な活動	形態
1	「比」の用語とその意味を知り、数量の割合を比で表す方法について理解する。 両校で分担し様々な比のカルピス作りを行う。	合同 オンライン
2	一人分と二人分のカルピスの味が同じ(比が等しい)ことや、1とみる大きさを変えても比は等しいことを理解する。 両校の実験結果を発表し合う。	合同 オンライン
3	何を1とみるかによって、いろいろな比の表し方ができることを理解する。	各校
4	比の値の意味と求め方を理解する。	各校
5	a:bに同じ数をかけたりわったりしても比は等しいことを理解し、等しい比を作ることができる。 等しい比を作る問題を作り、出題し合う。	合同 オンライン
6	比の性質を使って、比を簡単にできる。	各校
7	小数や分数で表された比を、簡単な整数の比に直すことができる。 小数や分数で表した比を簡単にする方法を話し合う。	合同 オンライン
8	比を利用し、一方の量をもとに他方の量を求めることができる。 カルピス作りの活動から、カルピスの量をもとに水の分量を求める方法を考え、話し合う。	合同 オンライン
9	ある量を、示された比に分ける(比例分配する)ことができる。 教科書の問題をもとに解き方について話し合う。	合同 オンライン
10	既習事項の定着を図る。	各校

写真1　実験の様子

第1・2時は、一人分のカルピスと同じ濃さのカルピスを作って等しい比を調べ、その結果を報告し合った。一人で調べるよりも多くのデータを集め、各校で得たデータを全体で共有することで、比が等しくなる法則を見出すことができた。**(写真1)**

また、第7時の小数や分数で表した比を簡単にする方法を話し合う活動では、考えた解き方を発表し合ったり質問し合ったりすることで、A児一人だけでは出てこなかった解き方や考え方に触れることができた。

また、本単元の授業では、両校共通の点字ワークシートを作成した。通常、オンライン合同授業の場合、視覚障害児は音声を中心に授業を理解することになる。しかし、音声のみの授業や話し合い活動では、児童同士の理解が食い違ってしまうことがあったため、手元に触りながら確認できる共通の点字資料を用意することにした。また、導入時にカルピス作りという両校で同じ体験活動を行ったこともあり、問題の解き方を話し合う場面では、体験活動のことを事例として取り上げて説明する様子が見られた。さらに、問題の解き方を説明し合う場面では、手元の点字資料を触りながら友達に説明したり、計算過程を確認したりするなど、児童同士が積極的に話し合う様子が見られた。**(写真2)**

写真2 話し合いの場面で挙手をして発言をするA児

単元終了後のA児のふり返りシートからは、以下のような記述が見られ、多様な意見や考えに触れ、自身の考えを深めることができた様子がうかがえた。

> カルピス作りの実験は、一人だったらたくさん調べられないけど、大阪南の二人と分担したのでたくさん調べられました。（中略）話し合いながら問題の解き方を考えるときは、Bさんがぼくと違う解き方をしていて最初は「えっ、どうしよう」と思ったけど、話し合いながら「こんな考えもあるんだなあ」と思いました。ぼくの解き方も説明できてうれしかったです。

連携校の児童からは、「同じ教室で一緒に授業しているみたいで楽しかった。沖縄のA君の考えも納得した」という感想が聞かれた。

（2）筑波附属との合同授業:6年国語「海の命」（1月）

単元計画（全7時間のうち、4時間を合同で実施）

	目標及び主な活動	形態
1	物語の概要をつかみ、感想を持つことができる。 「海の命」の正体は何なのか、イメージを発表し合う。範読を聞き、感想をまとめる。	合同 オンライン
2	感想を伝え合うとともに、学習課題を設定し、単元の見通しを持つことができる。 感想を発表し合い、単元を貫く問いを作る。	合同 オンライン
3 4	太一とその他の登場人物の関係や、その影響を受けた太一の変容（成長）を捉えることができる。	各校
5	太一が瀬の主に対して抱いている感情について叙述をもとに読み取ることができる。	各校
6	太一が瀬の主を殺さなかった理由について、太一が影響を受けた登場人物との関係や叙述をもとに自分なりにまとめることができる。 「なぜ太一は瀬の主を殺さなかったのか」について互いの意見を出し合う。	合同 オンライン
7	太一が瀬の主を殺さなかった理由について自分の考えを発表し合うことができる。 単元を貫く問いに対する自分の考えを発表し合い、共有する。	合同 オンライン

第1時で「海の命」の感想をまとめ、第2時でそれぞれの感想や疑問に思ったことを出し合い、単元を貫く問いづくりを合同で行った。これまでA児は、一人で単元の問いづくりに取り組んできたが、一人では問いづくりの視点を広げることに限界があり、その後の読解でも読みを深めることが難しいことが多かった。しかし、合同での問いづくりでは、連携校の児童の発表を聞いていたA児から「CさんとDさんの疑問をまとめたら、新しい問いが作れると思う」という発言があり、友達の意見を関連づけながら話を聞いたり、別の視点から意見したりする姿が見られた。**（写真3）**

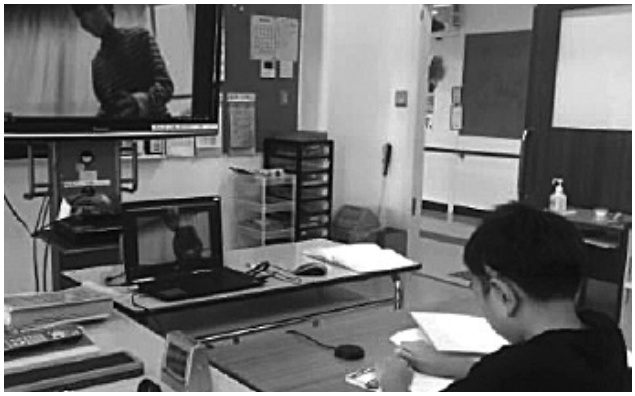


写真3 メモを取りながら友達の発表を聞くA児

また、各校に分かれて読みを深める学習では、「筑波附属のEさんが作った問いの答えって、この段落に書いてある部分じゃないかな」と話し、合同授業でのやり取りが自校のみの授業場面でも活かされた発言が聞かれた。単元後のふり返りでは、以下のような記述が見られた。

> 問いづくりは、一人でやるよりもみんなでやったほうがいろんな問いが出て楽しかった。みんなで考えると、自分では思いつかない問いが出てきてワクワクした。また、最後の話し合いは自分では見つけきれない意見も出てきてとても納得できたし、楽しかった。

連携校の児童からは、「難しいこともあったけど、意見を出し合いながら楽しく授業を進めていけた」「みんなで問いを作って読んでみると、内容がわかりやすくなった」などの感想が聞かれた。

V 成果と課題

1. 研究の成果と仮説の検証

（1）児童の学習内容を広げる･深める力とコミュニケーション力

A児の全国学力･学習状況調査の質問紙回答（令和2年7月）と遠隔合同授業後の自己評価（関連する項目を抽出、令和3年3月）を比較した。**（表1）**

質問紙の比較から、話し合いに関連する項目で評価点の向上が見られたことから、A児は遠隔合同授業を通して自分の考えと友達の意見を比較したり関連づけたりするなど、

表1 遠隔授業を通した自己評価の変化

当てはまる：4　　やや当てはまる：3
やや当てはまらない：2　　当てはまらない：1

問紙の設問	7月	3月
友達と話し合うとき、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかり伝えていたと思う。	1	4
友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	1	3
友達と話し合うとき、友達の考えと自分の考えの同じところや違うところを受け止めて、自分の考えを持つことができる。	1	4
国語の授業で目的に応じて文章を読み感想や考えを持ったり自分の考えを広げたりしている。	2	4
算数で問題を解くときに、自分で考えた後に友達の意見を聞いてより良い考えがあれば、それをほかの問題を解くときに使おうとしている。	2	4

多様な意見をもとに自分の考えを広げたり深めたりできたと考えられる。また、担任同士のふり返りから、「合同授業を開始した頃は、児童同士の会話の間に教員が入らないと会話が続かなかったり、一問一答のような会話が多かったりしたが、徐々に話し手も聞き手も相手を意識したやりとりができるようになり、児童だけでも会話が続くようになってきた」という意見が聞かれ、両校の児童のコミュニケーション能力が育ってきた様子がうかがえた。

(2)主体的に参加できる態度

これまでの居住地校交流や学校間交流とは違い、今回の合同授業は話し合いを行いやすい人数だったことや、見えにくさを抱えた児童同士だったこともあり、毎回の授業を楽しみにし、積極的に授業参加する姿が見られた。また、互いの見え方について話したり、中学部進学に向けての不安や期待を話し合ったりする姿も見られた。各校に分かれての学習時にも、合同授業を思い出して自分の考えをまとめる様子が見られ、個別で学ぶ場面でも合同授業の効果が感じられた。

これらのことから、年間を通して遠隔合同授業に適した単元や場面を設定することで、視覚障害児童同士の主体的・対話的な学び合いが深まり、児童が自身の考えを広げたり深めたりできる可能性が示唆された。児童数の減少により、単独で集団での学びを保障することが困難な状況にある全国の盲学校にとって、オンラインを活用した遠隔合同授業は、これまで盲学校が培ってきた専門性に合わせて、視覚障害児童同士の学び合いを可能にする新しい学びの方法だと考えられる。

(3)その他の効果

今回の遠隔合同授業では、児童だけではなく、職員にとっても大きな効果があった。普段は一人で教材研究を行う日々だが、遠隔合同授業では担任も二人になる。これは、1つの授業について職員同士が意見を交換し合う機会が生まれるということだ。この点は、盲学校の専門性を維持継承していく上でも重要だといえる。児童生徒数の減少に伴い、職員数も減少している全国の盲学校にとって、単独校だけではこれまで培ってきた専門性を維持継承することが困難な状況にある。そんな中、オンラインを介して他県の盲学校の職員同士が授業のノウハウや視覚障害を有する児童生徒に対する指導法を共有し、ともに授業づくりを行うことは、複数校同士で視覚障害教育の専門性を共有し、維持継承していくことにつながると考える。

A児は小学部を卒業後、本校の中学部に進学したが、中学部でも他県の盲学校との遠隔合同授業が継続されており、学部を越えた連続的な取り組みが実現している。今後も遠隔合同授業の継続的な取り組みを通して、授業の質を高めていきたい。

2. 課題

●遠隔合同授業に取り組むための連携校をいかにして見つけるか。
●児童の評価を両校の教員間でどのように共有するか。

<参考文献>
※1 池谷 尚剛 2010
「すべての視覚障害児の学びを支える視覚障害教育の在り方に関する提言」
文部科学省
※2 文部科学省 2018
「遠隔学習導入ガイドブック第3版」
文部科学省
※3 鷹岡亮･大塚佑亮 2018
「小学校における遠隔合同授業で身に付ける力と態度の整理について」
教育システム情報学会第43回全国大会

伊波教諭へのインタビュー

研究を進めるにあたり苦労した点はありますか？

以前より、全国の盲学校では児童生徒数の減少によって集団での学びをどのように保障していくかが課題としてあがっていました。本校においても同様の課題を抱えており、学校間交流や居住地校交流の充実を図ることで集団での学びを保障する取り組みを進めてきました。しかし、コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、従来の交流及び共同学習の実施が困難となり、新たな学習集団のあり方を検討する必要が出てきました。本研究はその中での取り組みですが、研究連携校を探すことが一番難しかったです。また、初めての取り組みでしたので、私も連携校の先生方も手探りの中で試行錯誤しながら遠隔合同授業の流れや単元の設定を行ってきました。

研究後、先生や児童・生徒にどのような変化がありましたか？

これまでの学校間交流や居住地校交流では、本校児童は「お客さん」のような状態になってしまうことが多く、晴眼の児童と同じ立場で意見をやり取りしたり教え合ったりする学習を行えるまでに長い時間がかかっていました。それに対して、盲学校同士の遠隔合同授業では見え方に困難さを抱えた同じ立場の友達ができたことで、これまでの交流よりも積極的に友達と関わろうとする様子が見られたり、お互いの見え方や困り感について話し合ったりするなど、より深い学び合いになっていると感じています。また、職員にとっても学校の垣根を超えて児童の実態について話し合ったり、教材研究をしたりする仲間を見つけることができたと感じています。校内の職員にとっても良い刺激となっているようで、学部を越えてオンラインでの遠隔合同授業の取り組みが広がっています。

オンライン合同学習を行う際、課題となったことや、改善が必要となったことなどありましたら、お聞かせください。

授業の日程調整が難しかったです。各校の時間割が異なっていることや、学校行事との兼ね合いなどもあり、オンラインでの合同授業を設定しづらい時期もありました。今後、各校が年間指導計画に位置付けるなどしてオンライン合同授業がスムーズに行えるような条件整備が必要になると感じています。

また、授業前後のふり返りと打ち合わせの時間を捻出することも最初の頃は難しかったです。放課後は各校の研修や保護者対応などもあり、なかなか時間が取れないのが現状です。そのため、授業後のふり返りと次時の授業の相談をまとめて１時間で終えられるようにしました。具体的には、授業のふり返りシートを作成し、同じ様式を共有することでふり返りの視点を統一したり、略案の様式を統一するとともに授業のねらいや活動を盛り込みすぎないよう共通確認を図りながら授業づくりを行ったりするなどの改善を行ってきました。

友達がほしいと言ったA児童ですが、研究を通して大きく変わったことはありますか？

研究後、本校の中学部に進学したA児ですが、A児が自分で本校校長に「中学部でもオンライン授業をやりたいです」と直談判へ行ったことが中学部でのオンライン授業を実施することにつながりました。これまでは積極的に自分のやりたいことや勉強したいことを教員へ伝えることが少なかったA児だったのですが、自分の希望を教員へ伝えた姿にA児の大きな変化を感じ、嬉しく思いました。

同時に、これほどまでにA児が友達と学びたいという思いを持っていたことを知り、これまで集団での学びをきちんと保障できていたのか、もしオンラインを活用した合同授業を行っていなければ、私はどうやって対話的な学びを行おうとしていたのか（集団での学びを設定せずにA児にとって大切な一年を過ごそうとしていたのか）、私自身の実践を反省する時間にもなりました。

全国の視覚障害特別支援学校や盲学校に同様の課題を持った先生方がいらっしゃると思います。メッセージがあればお願いします。

全国の特別支援学校（視覚障害）では、本校と同様の課題を抱えている学校が多くあることと思いますが、共通の課題を抱えているということは、共通の突破口を見出すことも可能ではないでしょうか。本校のように県内に盲学校が一校しかないという地域も多く、校内だけでの専門性の維持向上が難しい中、オンラインを活用した遠隔合同授業の取り組みは、盲学校における専門性を維持向上するための新しい方法の一つになりうると私は考えています。

各盲学校がこれまで担保してきた一人ひとりの実態に応じた学びを基盤とし、県を跨いで盲学校同士がつながることで集団での学びを保障することができれば、盲学校の新しい魅力として発信していけるのではないかと私は思います。新しい時代の新しい学びのあり方の可能性を一緒に考えていけると心強いです。よろしくお願いいたします。

心に残る子どもたち

笑顔で

岡本 都久美（おかもと つぐみ）
香川県高松市立亀阜小学校 指導教諭

「今年もよろしく　おねがいします。」

今年のお正月も、Aさんから年度初めの挨拶文と笑顔の写真が載った年賀状が、私のもとに届きました。6年前に比べると、随分書く力が成長していることがわかり安心しました。

Aさんは、4年前の2年生の時に、香川から東京へ転校して行きました。今は6年生。この春、4月からは中学生になります。

時の経つのは早いもので、Aさんとの出会いは6年前。Aさんが1年生の時でした。入学式の次の日から手をつないで下校。いつもにこにことしていて、人懐っこく優しい笑顔が印象的でした。どんな時でも、天使のような笑顔を見せてくれていました。でも、心配な点が少しずつ見えてきました。

ある時、自分の書いた文字を「失敗した。」と言い、何度も消す姿がありました。他の子どもたちと比べて、同じようにできない自分がいやになり、落ち込む場面が多く見られるようになりました。確かに、着替えもボタン掛けも遅く、書く時も手が震え、細かい文字を上手く書くことができないように見えました。「この子には、手先を器用にすること、腕等に筋肉をつけることや自分自身に自信がもてるようにすること、何とか自分の力で前に進めるようにすることが大切ではないか。」と考えました。そこで、毎日、指遊びやじゃんけんをしたり鉛筆に補助用具をつけたり、雲梯（うんてい）を友だちと一緒にできるように支援したりして少しでもできることが増えることを願っていました。でも、すぐに効果は表れません。それでもあきらめず、少しでも笑顔が増えるようにと声を掛け続けました。

ある日、「おかげで前向きになってきました。落ち込んでいても、先生からの魔法の言葉を伝えると立ち直って、自分から少しずつ取り組むようになりました。」という保護者の方の言葉を目にしました。

いったいどんな言葉だろう、と思い起こしてみました。私がいつも口にしていたのは、クラスのみんなに「失敗は成功のもと。」「毎日、成長しているよ。」という言葉。Aさんが、失敗することはだめなことだと思い込んでいたことや自分の成長を実感することができていなかったことが、この時はっきりとわかりました。

私は、Aさんに限らず子どもたちには、誰だって失敗したくて失敗する人はいないし、失敗が次のエネルギーにつながるということ、また、誰でも頑張れば、少しずつ自分の力になって成長につながっていることを胸に刻み、失敗を恐れずチャレンジして欲しいという思いを改めて強くしました。そして、困難なことがあって落ち込みそうな時でも、気持ちを切り替え、笑顔を絶やさず前に進んで行って欲しいと思います。

今も、子どもたちは、笑顔で過ごせているでしょうか。きっと、自分の力を信じて前に進んで行ってくれていることでしょう。さらに素敵な笑顔が輝いていることを願っています。

来年も再来年も、さらに成長したAさんからの笑顔の便りを楽しみにしています。また、私も子どもたちの笑顔にパワーをもらい、「子どもたちの笑顔を増やしていけるようにしたい。」という思いをさらに強くしています。

利他とレジリエンス

高橋（たかはし） みゆき
群馬県立大間々高等学校 校長

「先生、合格していました。受験終了です。これで探究に専念できます。」A子が弾むような表情で報告に来てくれた。何度か不合格通知を受け取った後の「合格」であったので、さぞかしホッとしたのであろう。

A子は、「みらい塾」のリーダー的存在である。「みらい塾」とは、有志の生徒から成るグループで、地域、社会の課題解決に向けて探究している。「みらい塾」という名は通称で、正式には、「SDGs井上浦造みらい塾」という。「井上浦造」とは本校の創立者である。

本校は、122年前に初代校長の井上浦造氏によって「地域の柱となり、社会に貢献できる人材の育成」を目指して創立された。このときの生徒数はわずか14名。小さな私塾からのスタートであった。

2020年4月、私は新任校長として本校に着任した。コロナ禍で、臨時休業中という異例の年度スタートであった。生徒がいない閑散とした校舎、静かな校長室で、私はこれからの学校経営について考えていた。生徒たちにとってかけがえのない高校3年間。休業中の今、生徒たちは授業も受けられず、友人にも会えない、部活動もなし。刻々と過ぎていく決して取り戻すことのできない大切な時間。この状況の中で、どのように生徒たちに希望を持たせたらよいのであろうか。

鬱々としながら、本校100年史を紐解いた。そこには、井上校長が地方教育推進のために本校を創ろうと決意してから、初代校長として務めた約40年間の並々ならぬ熱意と苦労が綴られていた。井上校長は、自ら授業を担当し、生徒に「自分の名利ではなく、社会に貢献すること」を説いていた。経営は苦しく、本校を継続させるため、度々私財を投じてきたようである。まさしく自分の名利ではなく、社会に貢献することを実践していた。

コロナ禍になり、「レジリエンス（困難から回復する力）」という言葉がよく使われるようになった。アメリカのある脳科学の研究によると、利他の精神を持った人は、貢献することで自己有用感を持ち、レジリエンスを身に付けられるそうだ。私も、この建学の精神を引き継ぎ、社会に貢献できる生徒を育てていきたい。利他の心を持った生徒は、困難な状況の中からも光を見つけ、希望を持って生きていくであろう。

臨時休業が明けてすぐに「SDGs井上浦造みらい塾」が発足した。彼らは自分たちの探究活動の他に、全校生徒が取り組む「SDGsみらい探究（総合的な探究の時間）」を牽引している。

現在、みらい塾の生徒たちが注力している探究は、人口減が進む大間々町の活性化とジェンダー問題である。彼らは自分の進路決定の手段として探究活動をしているのではない。社会に貢献したいという心からの思いからである。

「これで探究に専念できる。」A子の言葉が井上校長に届いているだろうか。

歯周病　第3回

歯周病予防（セルフケア）のポイント

わかばやし　けんじ
若林 健史

歯科医師
医療法人社団真健会（若林歯科医院、オーラルケアクリニック青山）理事長

1982年、日本大学松戸歯学部卒業。89年、東京都渋谷区代官山にて開業。2014年、代官山から恵比寿南に移転。日本大学客員教授、日本歯周病学会理事を務める。歯周病専門医・指導医として、歯科医師向けや一般市民向けの講演多数。テレビCMにも出演。AERAdot.の連載をまとめた著書『なぜ歯科の治療は1回では終わらないのか？聞くに聞けない歯医者のギモン40』がある。

前回は歯周病が全身の健康に悪影響をおよぼす、というちょっと怖い話をしましたが、実は予防ができれば、それほど恐れる必要はありません。

今回はそのために欠かせないセルフケアのポイントをお話していきましょう。

歯周病のセルフケアで何より大事なのは、「プラークコントロール」です。まずはこの言葉を覚えていただければと思います。

なぜプラークコントロールが大事なのでしょうか。

おさらいになりますが、歯周病は口の中の歯周病菌から発生する感染症とお話しました。このため、病気の予防にはこの歯周病菌をいかに減らしていくかが大事になるということです。

プラークは歯の表面にネバネバとくっつく黄白色の粘着物です。歯に食べかすが残っていると口の中の歯周病菌が集まり、増殖してプラークができあがっていきます。プラークは強固な膜で覆われており、バイオフィルムともいわれます。これを放置しておくと、細菌の活動が活発になり、歯周組織が侵されていきます。ですから、プラークが活発になる前に、日々のブラッシングでこれをこそげ落とす必要があるのです。また、ブラッシングによる歯ぐきのマッサージ効果で、血流がよくなることも期待できます。

もっといえば、この処置を歯科医院では歯科衛生士がおこなっています。「スケーリング&ルートプレーニング」という治療で、専用の器具や機器を使って歯のプラークや歯石をすみずみまで取り除いています。この処置をおこなうと歯周病菌がぐんと減りますので歯周病の進行はストップし、歯ぐきもひきしまってきます。

ただし、私たちは毎日、食事をするので、そのたびに新たなプラークができます（口の中の歯周病菌をゼロにはできません）。これを取るために毎日、歯科医院に通うわけにもいかず、このために自分でおこなう日々のセルフケアが欠かせないわけです。

参考までに、プラークコントロールの効果については、1965年にすでに、科学的に証明されています。健康な歯肉を持つ人たちにブラッシングを20日間、中止してもらい、プラークがどうなるかを追跡した研究です。研究ではプラークは日ごとに増加し、それと並行して歯ぐきの出血などの炎症が起こり、歯周病の初期段階である歯肉炎が発生しました。しかし、ブラッシングを再開したところ、プラークが減少して歯ぐきの状態が改善され、元の健康な状態に戻ったのです。

とはいえ、「毎日頑張って歯磨きをしていても、歯周病になってしまうのはなぜ？」と疑問に思う人は多いで

しょう。患者さんからもよく言われることですが、この原因は「自己流の歯磨きのために、プラークがしっかり落とせていない」ためと言えます。

プラークは歯の表面だけでなく、歯と歯ぐきの境目や歯と歯の間、さらに、歯の根に近いところなどにたまります。

こうした部分は、「なんとなく磨いている」だけでは極めて落ちにくく、「磨いているつもりで、磨けていない状態」になりやすいのです。

また、プラークを効果的に取り除くためには自分の歯に合った歯ブラシで磨くことも大事になります。

なお、ブラッシングのほかにも、補助的清掃用具の併用、生活習慣の改善など、歯周病予防のセルフケアでできることはたくさんあります。そこで、各方法のポイントについて順に解説していきます。

●ブラッシングのポイント

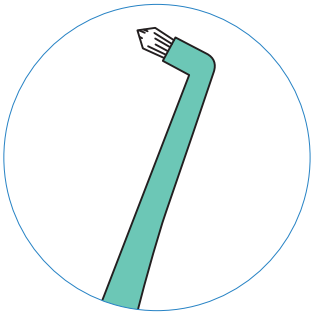
歯ブラシの選び方

歯ブラシは柄がストレートで、磨きにくいところにも届く、ヘッドが小さめのものがおすすめです。

毛の硬さは、「普通」がいいでしょう。「硬いブラシのほうが磨いた実感がある」という人がいますが、プラークは強くこすらなくても十分に取り除けます。硬すぎると歯肉が傷ついてしまうことがあり、逆にやわらかすぎると、毛が寝てしまってプラークを十分に落とすことができません。やわらかめが合うのは、歯肉が腫れて痛くて磨けないようなとき（重症の歯周病）だけです。

また、奥歯など通常の歯ブラシが届きにくい場所には「ワンタフトブラシ」を使うといいでしょう。柄の先端に小さいブラシの毛束が一つだけついている歯ブラシで、重なった歯の間にたまったプラークにも有効です。

いつものブラッシングが終わった後に使います。



歯磨き粉について

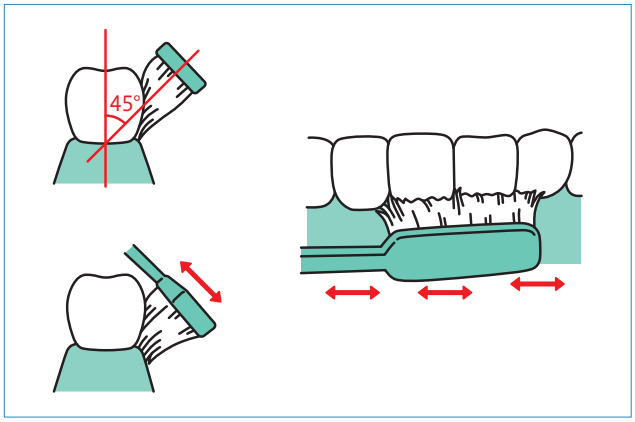
歯磨き粉はつけたほうが、つけなかったほうに比べて、プラークの落ちがいいことが実験で証明されています。むし歯予防効果の期待できるフッ素入りの歯磨き粉のほか、歯肉の炎症を抑える成分により歯周病予防効果の期待できるものもあります。なお、歯科医院だけで売られている専売の歯磨き粉は一つの薬効に特化して作ってあり、成分の濃度が高く設定されています。

歯磨き粉はたくさんつけすぎると口の中にたまり、長時間磨くことができなくなるため、チューブから0.5～1センチ量を出して使うのが適当です。

磨き方、磨く時間

歯磨きの方法にはたくさんの種類がありますが、どれがいいということはなく、やりやすい方法を選びましょう。ポイントは歯ブラシの当て方です。

歯ブラシのかかとや先を上手に使い、歯の裏側や側面、歯と歯ぐきの間の汚れをかきだすように磨きます。1か所につき、10～20回を目安に、すべての歯を磨きましょう。きちんと磨くと3～5分はかかります。タイマーなどで測るのもいいと思います。



なお、多くの人は自己流の歯磨きになっています。磨き方をネットなどで確認するのもいいですが、可能であれば、歯科医院で歯科衛生士に指導してもらうことをおすすめします。

ブラッシングのタイミングは食後、できるだけ早くがいいでしょう。「食後30分待ってから磨く」という考え方が一時、話題になりましたが、現在は否定されています。歯磨きは食事のたびにできれば理想ですが、無理な人もいるでしょう。私は回数よりも、まずは「1日1回、ていねいに磨きましょう」とお話しています。お風呂に入ったときに磨くと、長時間丁寧に磨けます。

電動歯ブラシについて

電動歯ブラシを使うと2分程度できれいに磨くことができます。プラークを取り除く能力は、手磨きによるものの約8倍という報告もあります。

電動歯ブラシはもともと、手が不自由な方など特別な人を支援するために開発されたものです。このため、手先の動きが悪くなってくる高齢世代には向いていると思います。ただし、高齢になっていきなり電動歯ブラシを使うのは難しいかもしれません。元気なうちから使って、慣れておくのも一つの方法です（私も自宅では電動歯ブラシを使っています）。電動歯ブラシにはいくつか種類がありますが、歯周病の人には音波歯ブラシや超音波歯ブラシがおすすめです。

一方、電動歯ブラシも正しく磨けないと効果がありません（きちんと磨けている人はほとんどいないのが現状です）。このため電動歯ブラシについても、歯科医院で磨き方の指導を受けることを推奨しています。

●補助的清掃用具（デンタルフロス、歯間ブラシ）について

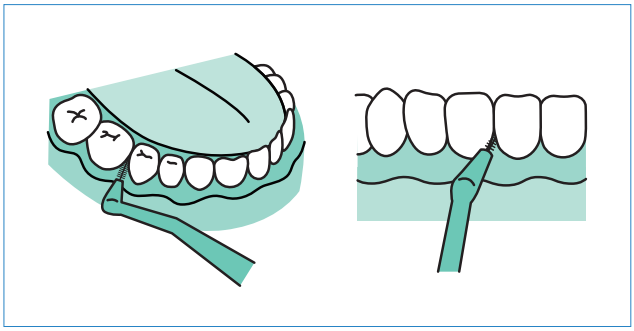
歯ブラシと並んで歯周病予防の三種の神器と言われています。ブラッシングだけでは取り切れない歯と歯の間のプラークを取り除くことができ、ブラッシングによるプラークの除去率は58%であるのに対し、これにデンタルフロスを加えると86%まで除去できるという報告があります。

このためブラッシングの後にはデンタルフロスか歯間ブラシを使うことを習慣にしてください。デンタルフロスは歯と歯の間に糸を通して汚れを取り除く道具です。歯間ブラシはつま楊枝のような細い針金（ゴム製もある）に清掃のための毛が付いたブラシ状の道具です。

すでに歯周病と診断されている人で歯間がある程度、空いている場合は歯間ブラシが向いています。歯周病がない人は歯と歯のすき間が狭く、歯間ブラシが通らないことが多いので、デンタルフロスが推奨されます（このような人が無理に歯間ブラシを入れると、歯肉が傷ついてしまいます）。

なお、デンタルフロスは歯と歯の間に入れやすいように糸にワックスをコーティングして滑りをよくしたものが主流ですが、ワックスをコーティングしていないアンワックスのほうがプラークをしっかり除去できます。

歯間ブラシにはさまざまな太さ（サイズ）のものがあり、自分の歯のすき間に合わせて選びます。柄はストレートタイプや曲がったタイプなどがありますが、使いやすいものがいいでしょう。



●歯科医院でのメインテナンス

セルフケアで取り残してしまったプラークを定期的に歯科医院で取り除くことで歯周病予防はほぼ完ぺきになります。すでに歯周病で通院している人は主治医の指示にしたがって、そうでない人は歯周病に詳しい専門医のいる歯科医院を受診し、メインテナンスをしてもらいましょう。そこでブラッシング指導を定期的に受けると、なおよいでしょう。

●生活習慣の改善

ごはんをはじめ、パンやうどんなどの炭水化物には虫歯菌や歯周病菌のエサとなる糖質が多く含まれています。歯が悪いとやわらかいものを好むようになりますが、こうした食事は糖質が多いので、悪循環となります。

歯周病予防として積極的に摂りたいのは野菜です。食物繊維の多い食べ物は歯につきにくく、噛み合わせ部分の汚れを落とす作用もあります。

このほか、歯周病のリスクを高めるものとしてタバコ、糖尿病（前回）、ストレス、などが明らかになっています。こうしたリスクがあると、ブラッシングをていねいにしていても、歯周病が悪化しやすいので、できるだけリスクを減らす生活を心がけてください。

My Second Life vol.9

子どもヤマビル研究会コーディネーター

樋口大良さん

樋口（ひぐち） 大良（たいりょう） さん〈75歳〉（三重県四日市市在住）

小学校校長を定年退職し、今年で15年。75歳になった今も子どもたちと共に山に登り、沢を歩き、ヒルを捕って研究する姿は、指導者ではなく哲学者のようだ。本人は自らを「コーディネーター」と呼ぶ。

定年で教育現場から離れたが、樋口さんを慕う児童は多く、樋口さん自身も学校では目の行き届かない「グレーゾーン」の子どもたちの存在が気になっていた。「寺子屋」と名付けた私塾を設け、「おじいちゃんと勉強するかい」と気になる一人ひとりに声を掛け、進学塾ではない場所をつくり家庭訪問も行った。「子どもは買い物をしたりして、生活の中でお金の計算を自然と身に付けます。ところが、小学6年生になっても“お釣り”という概念が全くなく、修学旅行に連れていくのも危ぶまれる児童がいた。よほど授業についていけない子には学校も手を差し伸べることができますが、教師も気がつかないグレーゾーンの子どもたちが意外と多いのです」。

そんな子どもたちが、ヒルに夢中になることがあった。「山にはヒルがいるから入るな」と親に言われてそれを守る子どもたちが、自然体験教室で初めて捕まえたヒルを観察するうちに、ヒルと積極的に関わろうと目を輝かせ行動し始めたのだ。塩をかけたり石で叩いたり、手のひらの上に乗せたりと、ヒルを恐れる子どもは一人もいなかった。「この嫌われ者のヤマビルを教材として活用できないか」。そう考えた樋口さんは、2011年4月、小中学生12人とともに「子どもヤマビル研究会（通称:ヒル研）」を立ち上げる。

子どもたちによるヒルの生態研究が始まった。樋口さんはコーディネーターとして子どもたちを見守り、「こうしてみたら?」「今日も賢くなったね」と小さな科学者たちの自主性を促し、短い言葉で褒めるだけ。「血を吸うヒルは赤いケチャップも吸うのか」「ヒルはどこに潜んでいるのか」「鹿とヒルの分布図に整合性はあるのか」等々、子どもたちは自ら仮設をたて実証し、結論を導く。次第に「ヒル捕り名人」「ヒルの解剖名手」になっていく子どもたち。ヒルで悩む登山家から質問を受けることも多くなっていった。「ストッキングを履いたらヒルに吸血されないか」の答えは、「yes」だ。腕や足にストッキングを装着した子どもたちが実証した。ヒルの口は吸盤になっていて皮膚にぴったり吸い付くことで血を吸引する。だから、ストッキングの繊維の上からは最初の吸引ができないし隙間から空気が入りうまくいかない。したがって登山者のヒル対策としてストッキングは有効である。事実は強いのだ。

体当たりで研究を続ける「ヒル研」の子どもたち

昔から「ヒルは木から落ちてくる」と言われていたが、それを覆した世界初の発見も、子どもたちによる体当たりの研究成果だった。ヒルがたくさんいる「ヒルスポット」に座り、ビニール傘を逆さにして落ちてくるヒルを待ったり、ヒルを木にくっつけて登るかを観察したり、大きなビニール袋に研究員が入りヒルが首まで登るか調べたりと、あらゆる方法で実験を試みた。3年にわたるこの研究が、『ヒルは木から落ちてこない。ぼくらのヤマビル研究記』(山と渓谷社)として出版され、全国から注目を集めている。

「ヒル研設立から11年が経ち、子どもたちは大きく成長しました。今年4月からは女子児童も仲間に加わります。全国に支部ができたらと思うと楽しいし、僕の跡継ぎも募集中です。条件は3つ。自然が好きなこと、自然と共生できること、子どもたちを見守れること。優秀な先生は多いが、子どもたちをよく観察して上手に褒め、見守り、導いていける人は少ない。世話をやく人になってはいけない。

定年を迎える全国の先生たち、子どもたちの才能を伸ばす活動をそれぞれの地でやりませんか?子どもたちとのヒル研究は実に面白いですよ」。

大分県立
大分商業高等学校 商業調査部

学校創立105年。豊かな人間性と専門的知識を身につけ、地域社会に貢献し、21世紀をたくましく生き抜く実践力を有する人材を育成。商業科・国際経済科・情報処理科の3科を有し、大分大学と連携した学習活動（大商ビジネスセミナー）等も用意されており、個々の生徒の能力や可能性を活かすための取り組みが実践されている。特色ある部活動も有名。進路も、希望進路100%を実現。

「地域の課題、わたしたちが解決します。」

長引くコロナ禍で、家庭ゴミが増えている。一日に出る国内のゴミは、東京ドーム115個分。一人あたり920グラム、処分費は15,500円にのぼる。今回は、ゴミを減らし、長く住み続けられる街をつくろうと動き始めた、大分商業高等学校商業調査部の取り組みを紹介したい。高校生の取り組みが地域の問題解決の糸口となり、行政や企業を巻き込むSDGsの活動となっているからだ。

京都や奈良の鹿や兎がプラスチックゴミを食べ消化不良で大量死したことを知り、「人間の不始末が動物の生命を危機にさらしている。ゴミ問題の解決に向けて行動し、地球上で生きるすべての生命の未来生活を守りたい」と考えたことがきっかけ。3年計画で研究をスタートさせた。ゴミ問題を他人事でなく「自分ゴト」として認識してもらい、多くの「共感」を得るにはどうしたらいいのか。商業調査部9名の生徒は、山下智史教諭とともに地域に飛び出し、ゴミで悩む地域や企業の声を集める一方で、Googleフォームを使ってアンケート調査を実施。ゴミ問題の現状把握を行った上で、ゴミの分別・減量を推進する活動を開始した。

まず取り組んだのはゴミ箱の「見える化」だ。ゴミ箱を透明にして分別を促そうと、商業調査部の女子生徒たちが木材とアクリル板でDIY。大分市役所本庁舎4階エレベーターホール前に分別表示ごとに5種類の「透明ゴミ箱」を設置。学校校舎内の自販機横にも同様に設置し、結果検証と意識調査を実施したところ、ゴミの分別意識が高まり、減量にもつながることが明らかになった。

次なる挑戦は、ゴミ問題を抱えるコンビニエンスストアの問題解決。分別状況が悪く、車中ゴミも捨てられて、分別の苦労が絶えないコンビニ従業員。ネット通販商品の空箱に靴や本、飲みかけのペットボトルに食べかけの弁当があふれるゴミ箱。そんな実態を知る中で、分別を促す啓発ポスターと分別表示も分かりやすく手づくりし、より中身が見えるようゴミ箱の側面もアクリル板に変更した。透明ゴミ箱の大きさや強度も改善し、市内6か所のコンビニに設置。この活動が大分市民の目にとまり、広く知られることになる。

コンビニエンスでのゴミ問題解決着手後は、別府湾の清掃活動や海洋プラスチックゴミ問題に取り組む大分県立大分工業高等学校とタッグを組み、イオン九州のショッピングセンター店舗で新たな透明ゴミ箱を設置することになった。工業高校のものづくり技術を駆使した設計でペットボトル投入口を下向きにし、素材もアルミにして軽量化を実現。商業と工業の垣根を超えた「ゴミ問題」解決共同プロジェクトが誕生した。

実働に加え、SNSを使った情報発信にも積極的に取り組んでいる。Instagram、Twitter、facebookに公式ページを開設し、双方向でコミュニケーションをとることができる「ゴミニケーション」を図り、アンケートを実施して改善を続ける。顧問の山下智史教諭は、「次なるステージは、アップサイクル商品の普及です。アップサイクルとは、廃棄されるものに新しい価値をつけ需要を生み出す循環システムのこと。ゴミを生まれ変わらせ、売れるアップサイクル商品を開発していきます」と熱く語る。

丸山征一郎校長は、「商業調査部に入部したいからと入学してくる生徒も増えています。物事に主体的に挑戦し、時代をたくましく生き抜く力を育む生徒たちを、これからも全力で応援していきます」と力強く未来を見据える。大分商業高等学校の問題解決能力は、生徒たちの背中を押す自由闊達な校風によって伸びていく。

丸山征一郎校長（右）と山下智史教諭

「教職員の皆さまへ」

Gibraltar ジブラルタ生命

もう一度考えてみませんか
あなたがいなくなった後の大切な人のこと

生命保険信託

生命保険
万一の際に財産を創り出す

信託
残された財産を安全に管理する

生命保険信託とは…

生命保険信託は、プルデンシャル信託とジブラルタ生命間での代理店契約に基づき、お客様がご契約いただいた保険契約に対してご活用いただける仕組みです。(信託契約代理業務の種類：媒介)
生命保険信託を利用することで、ご自身に万一のことがあったとき、死亡保険金をご自身の希望するかたちで大切な方へお届けすることが可能となります。

生命保険業界初の信託子会社です

「プルデンシャル信託」ってどんな会社?

プルデンシャル生命の100%子会社として、2015年9月に管理型信託会社として登録※、同年10月から営業開始。世界最大級の金融サービス機関プルデンシャル・ファイナンシャルの一員です。
※登録番号：関東財務局長(信3)第14号

こんな想いや
ご心配はありませんか?
生命保険信託で
解決できるかも
しれません!

夫婦のみ世帯
配偶者の次は自分の両親に保険金を使ってほしい

お一人でお子様を育てている
幼い子供に多額の保険金を残すのは不安…

受取人の財産管理能力に不安がある
受取人が保険金を浪費してしまわないか心配…

高齢の親が受取人になっている
両親が高齢なので認知症などが心配…

お子様に障がいがある
障がいのある子供に多額の保険金を残すのは不安…
障がい者手帳

*プルデンシャル信託株式会社 信託契約代理店　ジブラルタ生命保険株式会社(信託契約代理業務の種類: 媒介)

共済事業(提携保険事業)提携会社
ジブラルタ生命保険株式会社
本社/〒100-8953 東京都千代田区永田町2-13-10

※ご契約の際はジブラルタ生命のライフプラン・コンサルタントを通じて「契約概要」「ご契約のしおり・約款」をご確認ください。

教職員のお客様 0120-37-9419(ミナ キョウ イク) 通話料無料

2022年2月1日より 福利厚生サービスが 日教弘クラブオフに変わりました

日教弘クラブオフへのログイン方法

STEP. 1 日教弘クラブオフの専用ホームページへアクセス。

スマホで アクセス

パソコンで アクセス

https://www.club-off.com/nikkyoko/

STEP. 2 ログインIDとパスワードを入力してログイン。

ログインID
会員証に記載されている「支部コード（2桁）」＋「会員番号（8桁）」計10桁の半角数字

初期パスワード
ご自身の生年月日（半角数字8桁）
※例：2003年4月15日生まれ → 20030415
※初回ログイン時にパスワードを変更いただきます。

さらにログイン後に

こんな方法でも

クラブオフアプリを ダウンロードして、 もっと便利に!

CLUB OFF

App Store からダウンロード
iPhone はこちら

Google Play で手に入れよう
Android はこちら

※Apple および Appleのロゴは米国その他の国で登録されたApple Inc. のサービスマークです。
※Google Play および Google Play ロゴは、Google LLC の商標です。

\ PICK UP MENU /

婚約やご出産、住み替えやお子様の入学など、人生の様々な節目をお祝いする制度をご用意しています。

申請いただいた対象者全員に無料でプレゼント!

ご出産お祝い制度

［会員ご本人またはパートナーの方でご出産された方］
ご希望のものを全部プレゼント

申込No. 5002780

婚約お祝い制度

［対象ブランドにてエンゲージリングご購入の方］
選べるカタログギフトプレゼント

申込No. 5004916

幼稚園・保育園入園お祝い制度

［今年度、幼稚園・保育園へご入園された方］
パタメモ、入園準備グッズ等、ご希望の物 全てプレゼント!

申込No. 5001672

小学校入学準備お祝い制度

［来年度、小学校へご入学される方］
防犯用ホイッスル、パタメモ、入学準備グッズ等、ご希望のもの 全てプレゼント!

申込No. 5002784

※申請条件やプレゼント内容など詳細は日教弘クラブオフホームページをご覧ください。
※掲載内容は2022年3月現在の情報です。プレゼントのデザインや名称、内容が変更になる場合がございます。

詳細はこちら▶

●日教弘クラブオフに関するお問い合わせは
0800-919-6189 まで。通話料無料 営業時間10:00～18:00（年末年始除く）

●東京海上日動は、公益財団法人日本教育公務員弘済会の福祉事業「教弘まなびやスーパープラン」「教弘フルガード」「教職員収入ロングウェイサポート」の引受保険会社です。

TOKIO MARINE NICHIDO 東京海上日動 www.tokiomarine-nichido.co.jp To Be a Good Company

表紙紹介

牛と共に夢叶える
鹿児島県立 市来農芸高等学校
（かごしまけんりつ いちきのうげいこうとうがっこう）

※表紙写真：哺乳と共に 愛情をそそぐ 畜産部員

昭和9（1934）年に開校し、文部科学省から農業経営者育成高等学校として指定を受ける本校は、歴史と伝統ある農業高校です。新学科に改変した今年度は、新たな歴史の幕開けとなりました。特色ある活動として、「畜産部」があります。日本一にも輝いた鹿児島の宝、「鹿児島黒牛」の次代を担うため、日々、奮闘しています。また、様々な全国レベルの大会にも出場することで、見識を深め、経験を積み、畜産業を生業とする覚悟を養っています。

〒899-2101
鹿児島県いちき串木野市
湊町160番地

【鉄　道】 鹿児島本線「市来駅」下車徒歩10分
【バ　ス】 鹿児島交通バス「鹿児島駅前」（上川内行）乗車「市来農芸高校前」下車
【自動車】 南九州西回り自動車道「市来IC」から10分

日教弘マークについて

公益財団法人 日本教育公務員弘済会＜略称:（公財）日教弘＞は、
都道府県を含む総称を「教弘」としていることから、
アルファベットの「K」がそのイニシャルです。
「K」を中心にした楕円形は、日教弘本部・支部が一致協力して事業推進していることを象徴しています。
全体のイメージは、未来への飛躍を展望したものです。

※2022年、（公財）日教弘は設立70周年です。

公益財団法人 日本教育公務員弘済会＜略称:（公財）日教弘＞の教育振興事業（奨学事業、教育研究助成事業、教育文化事業）及び福祉事業は教弘保険の契約者配当金により運営されており、日本の教育界に貢献しています。

公益財団法人 日本教育公務員弘済会　https://www.nikkyoko.or.jp

きょうこう 2022 春号 vol.39　発行／公益財団法人 日本教育公務員弘済会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-6 教弘会館内　TEL 03-3354-4001（代）　FAX 03-3354-4068
印刷／共同印刷株式会社